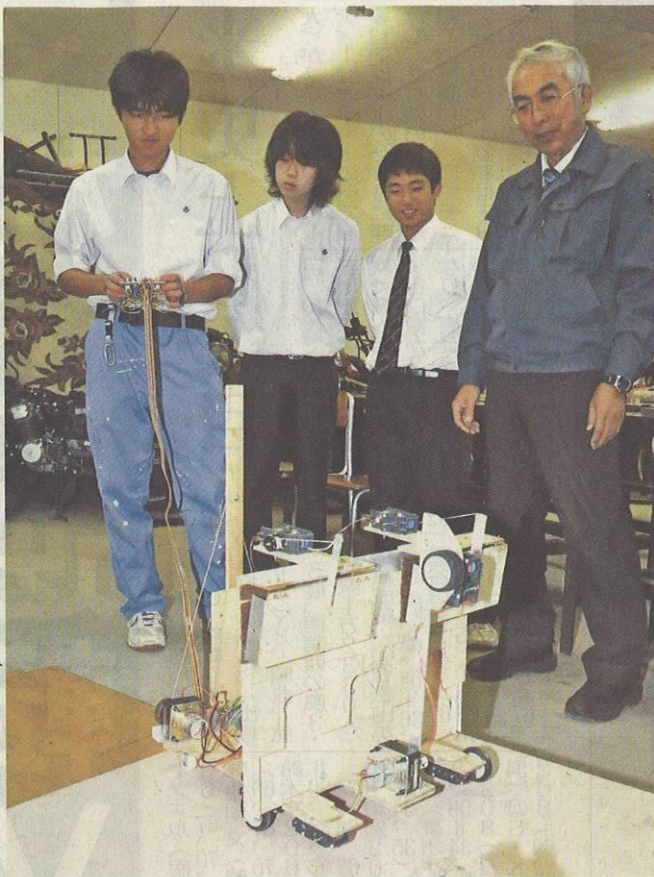


全国大会へ向けてロボットの操縦に励む、ものづくりクラブのメンバーと顧問の南豊教諭



全国大会へ改良、操縦練習

県予選には10校から17台のロボットがエントリ。1チーム2戦ずつ行い、合計得点で順位を競った。競技は、3分の制限時間内にリモコンで操り、4・5桁四方の会場内にある四つの島(台)から塩化ビニール製のハイプ、ペットボトル、テニスボールを別の島に移す他、リモコンで操れない自立ロボットで、2桁四方の角材を規定の高さまで登る。同クラブ部長の2年若松和繁君(む)がロボットを操縦し、2年佐藤圭君(も)がナビゲーターとして指示を出した。他チームが島から島への移動で、規定の台車からロボットが地面に落ちて失格になる中、同クラブのロボット「若様1号」は一度も落ちることなく着実に

高校ロボット競技大会県予選

初V

野辺地西ものづくりク

5日に八戸工業高校で開催された第19回全国高校ロボット競技大会青森県予選で、野辺地西高の「ものづくりクラブ」が初優勝を果たした。クラブのメンバーは来月16、17日、鹿兒島県で行われる本大会へ向け、操縦の練習に余念がない。

に加点。2位に60点差をつけて圧勝した。「ロボットの旋回がうまくいったことが勝負」と佐藤君。同クラブは県予選後、全国の上位4チームが競い合う本戦へ向けてロボットを改良し、操縦の練習を積んでいる。若松君は「島に乗り上げる装置がうまく働かずかがポイントと、3年ぶり5度目の本戦出場に気を引き締める。本戦で佐藤君に代わりナビゲーターを務める1年の木村雄二君(む)は「若松部長の支えになり、優勝できるように頑張りたい」と決意を新たにしました。